



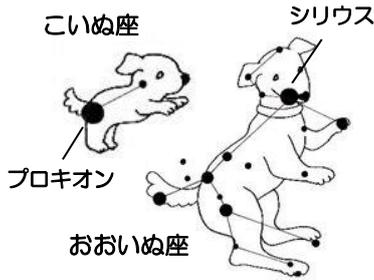
ジオスペース館だより

★ 神話・伝説・風習に登場する身近な動物たち

これまで、ギリシア神話と日本神話の神々を比べてきましたが、神話や伝説、古くからの風習には、神々以外に、たくさんの動物が登場しています。今回は今年の干支でもある「犬（いぬ）」に注目しましょう！



おおいぬ座・こいぬ座(冬) <ギリシア>



冬の星座で最も有名な「オリオン座」の近くに、「おおいぬ座」と「こいぬ座」があります。「おおいぬ座」には、全天で1番明るい1等星 シリウス が輝いていて、「こいぬ座」の1等星 プロキオン と「オリオン座」の1等星 ベテルギウス とをつなぐと【冬の大三角】ができ上がります。さて、「こいぬ座」は『狩人アクタイオンの猟犬メランポス』の姿とされていますが、「おおいぬ座」は、『月の女神アルテミスの侍女が飼っていた名犬レラプス』や『イカリオス王が飼っていた忠犬メーラ』など、様々な姿で神話に登場します。



狛犬(こまいぬ) <日本>



日本でなじみの深い犬といえば「狛犬」ですね。「狛犬」は、多くの神社やお寺に一対で置かれている霊獣で、魔除けとして神聖な場所を守っています。その起源は諸説ありますが、古代オリエント地域に生息していたライオンが、その後中国を経由し、霊獣「獅子」として日本に入ったといわれています。そのため、当初は獅子が2頭置かれていましたが、時が経つにつれ、本殿から見て左を「獅子」、右を「狛犬」とする一対のことを「狛犬」と呼ぶようになりました。現在では、姿形の違いもなく、単に「狛犬」と呼ばれています。獅子は「獅子舞」として日本の風習にも根付いており、平安時代の『枕草子』にもその様子が描かれています。狛犬には口の開いた「阿形」と口を閉じた「吽形」があります。「阿(あ)」は口を開いて最初に出す音、「吽(うん)」は口を閉じて出す最後の音で、宇宙の始まりと終わりを表す言葉とされているのです。今では、子犬風のものや玉に乗るものなど、色々な姿に変化してきた「狛犬」。ぜひお近くの神社やお寺でじっくりとながめてみてください☆

イベント情報 (くわしくは各チラシをごらんください) いずれも中央図書館2階事務室で受付

★ 星のお兄さん&びわっちくんの★プラネタリウム笑(ショ〜) 1/21(日) 15:00〜

参加料: 1人500円(先着120名)、《 券外発売中! 》

★ 星空コンサート「D'EL So L'è ~ 風の唄 ~」 2/17(日) 15:00〜

参加料: 1人500円(先着120名)、《 券外発売中! 》 (演奏: デルソール)



☆☆ 1月のプラネタリウムのご案内 ☆☆

平日	15:00〜	国際宇宙ステーション ISSからの眺め
土日祝	10:30〜	ドラえもん 宇宙ふしぎ大探検 3 ~地球のふしぎ~(字幕付)
	13:30〜※	ドラえもん 宇宙ふしぎ大探検 3 ~地球のふしぎ~
	15:00〜※	国際宇宙ステーション ISSからの眺め



※ 21(日)の13:30〜・15:00〜 は、「プラネタリウム笑」のため上記番組の上映はありません。

★プラネタリウムの休館日 <1月> 15(月)・17(水)・22(月) 29(月)

<2月> 5(月)・13(火)・14(水)・19(月)・21(水)・26(月)